市民談話室

原稿募集

6月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係（☎373-2111㈹333）です。

心に残った先生のはなむけの言葉

佐藤曜子さん（水道町5・主婦・四十五歳）

卒業式、入学式が近くなると思い出す、昨年の次男の小学校卒業式でのこと。式の後、教室で先生は静かに話されました。

「今日は三時に目が覚め、子どもたち一人ひとりの顔を思い浮かべながら、いろんなことを考えました。皆さんはとても幸福だと思います。元気に跳んだり、勉強したり、なんでもやれるから…。私の長男は目が見えず耳も聞こえません。話すことも歩くこともできません。もちろん、私も家内も全力投球で子どもの世話をしています。でもA先生はどうしていつもあんなに明るく朗らかでいられるのかと、人々は不思議に思っているようです」と。

次男は三年間A先生が担任でしたが、そのように心に悩みを持っているようなそぶりはみじんも感じられませんでした。いつも快活で物事を明るいほうへと導いてくださったからです。

人をうらやむことも、同情心を買うでもなく、ただ淡々と優しいまなざしで話される言葉の中で先生の「心」を感じました。

人は逆境の中でこそ、強く優しく思いやりのある、明るい心でいてほしいという願いを、子どもたちと父兄の前で最後のはなむけの言葉として贈ってくださったのではないかと思っています。私は感激で流れる涙をどうすることもできませんでした。

A先生、どうかいつまでもご健勝で、ご家族のかたの幸せをお祈りいたします。

「おたまじゃくしの家」に託す私の願い

早藤恵子さん（臼井・主婦・四十一歳）

昨年の四月、日の出町乙川ビル内に障害者の小規模通所作業所「おたまじゃくしの家」が開所されました。我が家の長女も障害の種類や程度の異なる十人の仲間と、六人の指導者といっしょに、毎日楽しく打ち豆、洗濯ばさみ作り、金具の組み立ての作業にがんばっています。

作業所には、ただ働く場所というだけでなく、友達といっしょに楽しく過ごせ、集団生活を通して社会性を持たせるために少しでも家から近いところで、地域に根ざして人間らしく生きてほしいという親の願いが込められています。そのためにも「おたまじゃくしの家」を一人でも多くの人に知ってもらいたくて昨年十一月にバザー、今年二月に中古衣料バーゲンを行いました。家庭で不用になった衣類を持ってきてくださったり、子どもたちのおやつにプリンを持ってきてくださったりと、多くの人の協力を得て大きな成果を上げることができました。

今後もこの子どもたちが地域社会の中に包含され、ともに生活していけるよう、努力していきたいと思っております。皆様のご協力をお願いします。

▶和気あいあいと作業に励むおたまじゃくしの家の皆さん

地球環境問題を考える モラルを基本に行政との連携を

島田 因さん（大通南二丁目・環境コンサルタント・五十六歳）

人には悪い癖がある。締め切りが来ても、相手がサバを読んでいると勝手に決め込み、相手を泣かせることがしばしばだ。地球環境問題に対する取り組み方もこれと似ている。放っておけば環境破壊が地球規模で進み、二十一世紀半ばには人類の生存すら危うくなるというのに、その重要性は理解しつつも、今すぐ危険的状況になるわけではないといろいろ理屈を並べ、問題解決を先送りしているのだ。

地球環境問題は一国の努力だけでは解決できない。今必要なのは、問題に取り組む意識や姿勢がどれだけ真剣で積極的であるかである。その点日本のこれまでの対応はフロン規制問題にしろ、炭酸ガス排出抑制問題にしろ受動的で、欧米サイドから見れば、むしろ不熱心の印象すら持たれているのではないか。国民一般の環境問題に対する関心も低いと言わざるをえない。経済成長をある程度犠牲にしても環境の保護を訴える欧米の意識レベルには程遠い。

オゾン層を破壊するフロンガス、酸性雨の原因となる硫黄酸化物や窒素酸化物、地球温暖化の元凶とされる炭酸ガスなど、いずれも経済活動と深いかかわりを持つ物質だ。それだけに地球環境問題の解決には経済成長との調和をどう取るかが絶えずテーマとして出てくる。しかし「調和」にこだわり過ぎて問題への取り組みが遅れてはならない。人間が安全に暮らせる環境を残しておくことは、我々二十世紀人の義務である。そのためには必要な規制目標をまず設定した上で、経済との調和を図っていくのが順序だろう。幸い我々はいったん目標を決めたらそれを確実にやり遂げる能力を持っている。一軒、一事業所のモラルを基本にして行政との連携で対策を考えなければならない。

市民文芸

俳句

枝ぶりに沿うて身を曲げ剪定す　安沢 飛浪

すずらんの犇きあへる芽立かな　公条 雪夫

村中にチャイムの響き夕霞　小林 光子

春の風邪侮りながら臥せにけり　豊木サダ子

紙の桝孫とつくりて豆を撒く　五十嵐寛吾

紙雛の少し俯き加減かな　成沢 素明

蜆汁音もろ共に掬ひけり　猪股 南魚

焼跡のくすぶりにほう冬の雨　山田 孝

男の子ばかり育てて雛の市　和泉 伸子

盛り土の型のままに草萌ゆる　小林 すみ

短歌

退職し年金暮の寂しさに
引出す口座の残高見詰む　小出熊四郎

一本の桜咲き初む村合いの
学び舎通いの懐しき小径　中村 京

春日和続けば今朝も何処にか
いくすがやかに鶯の声　小出よしの

川柳

肩書きがもの言う洋の西東　佐藤 ヨキ

夢を詰め過ぎた紙袋が破れ　高橋祐四雄

二次会を逃げ出したくて小指立て　竹石 甚五

私だってたまにはくぐる縄のれん　田中 成子

精いっぱい生きる産声高く上げ　田村 恒夫

丸刈りがさわやかに踏む甲子園　中村 尚治

旅先で気軽にマイク持ってみる　西条 ムラ

散り急ぐ桜が撮ってくれと言う　早川 英男

限りある命へ数珠を持ち歩く　山岡 フミ

市制三十イベント盛りだくさんで待つ　本間 雪江

幸せの一生てすと妻の世辞　吉川 彰

向かい風ばかり吹いてた人生譜　米野 光雄

鍵穴の向こうはみんな丸裸　今井 七郎

日曜日ゆっくり寝たいと愛ぼやく　織田 セツ

無二の友失意を語る不精ひげ　後藤マサノ

ふるさとの川の流れにある民話　佐藤トミノ

当たる？ 広報クイズ⑭

500円の図書券と県立自然科学館の招待券か

今月の問題は…

❶昭和六十年を基準年次として策定された国土利用計画（白根市計画）。目標年次は？

A 平成七年
B 平成十二年
C 平成十五年
（ヒント＝三ページ）

❷子どもたちから人気のある諏訪木保育園のお話おじさん。三月二十日のお話は？

A 笠地蔵
B うりこひめとあまんじゃく
C 福の神と貧乏神
（ヒント＝六ページ）

❸インドネシアを旅行した丸山さん。カンガルーの靴を注文しましたが言葉が通じません。困った丸山さんはどうしたのでしょう？

A 絵をかいた
B 身ぶり手ぶりで説明した
C 買うのをあきらめた
（ヒント＝九ページ）

応募の方法は…

はがきに答えの記号（例❶―A）、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をペアで差し上げます。

○**あて先** 〒950―12 白根市大字白根1235 白根市役所 広報クイズ係
○**締め切り** 五月十九日(土)必着のこと
○**抽選** 五月二十一日(月)に市役所に来られた人に抽選していただきます
○**発表** 六月一日号

4月20日に市役所に来られた小池 昇さん（小須戸町）に抽選していただきました。先月号の正解は❶C❷A❸Aでした。応募総数は34通で、そのうち正解は28通でした。

当選おめでとう！

【五百円の図書券】

▼斉藤陽子さん（日の出町・13歳）
▼佐野綾子さん（茨曽根・11歳）
▼相田淳一さん（北田中・17歳）
▼田中弘子さん（桜町1・59歳）
▼田村 豊さん（茨城県・34歳）

【県立自然科学館招待券】

▼和田秋男さん（七軒・39歳）
▼小嶋俊介さん（朝捲・10歳）
▼皆川美枝子さん（能登一丁目・36歳）